

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホームフォレスト柏木 かえでユニット	評価実施年月日	平成21年1月17日
評価実施構成員氏名	泉澤美貴子 大塚 典幸 高橋 公子 元木 芳枝 利田伸利子 星野元洋 上野 美智 工藤 幸子		
記録者氏名	泉澤美貴子	記録年月日	平成21年1月30日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>事業所独自の理念を作り、緑豊かな環境を利用したパークゴルフ場などで、地域との交流を図っています。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>スタッフルームや事務所に理念を掲げ、朝のミーティング時などに管理者や職員が理念の実践に向けて取り組むことを確認しあっています。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>利用者や来所者に理念を理解してもらえるように、廊下やリビングにも理念を掲げて取り組んでいます。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>パークゴルフ場を利用する方へは、気軽にトイレやホーム内を利用していただいたり、飼っている犬を通して気軽に声をかけ合ったり、避難訓練や餅つきなど隣近所とお付き合いをしています。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域の夏祭りへ出かけたり露店を楽しんだり、隣の老人ホームの居酒屋や行事に参加させて頂いたり、孤立を避けることに努めています。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>相談に見えた方へのアドバイス、電話などでの相談や問いについてその状況に応じて、ユニット会議などで話し合いをもっています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>全員で評価をし、外部評価の意義を理解し、改善の必要な部分についてはミーティング時に具体策を話し合い取り組んでいます。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>運営推進委員会議で話し合われた内容の報告を通して、そこでの意見をサービス向上に活かす話し合いをミーティング時やユニット会議などで行っています。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>市の介護福祉課とは電話や訪問で行き来する機会を作り、サービスの向上に取り組んでいます。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>個々の必要性は関係者と話し合い、必要な方は成年後見制度を利用しています。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>虐待が見過ごされることのないよう常にお互いに注意を払い、新聞やニュースにも目をむけ防止に努めています。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約に関しては、利用者や家族などの不安や疑問点を尋ね理解や納得を図っています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者の意見や不満、苦情が運営に反映できるように、管理者や職員は機会を設けています。</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>金銭の管理状況、利用者の暮らしぶりは毎月実施しており、健康状態はその都度おこない職員の異動などは毎月発行する『森のたより』で報告しています。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>玄関前に意見箱を設置して、気軽に意見や不満、苦情など運営に反映できるようにしています。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>2ヶ月に1度の予定で運営者と話す機会を設け、その中で意見や提案など話す機会は有ります。(管理者とは毎朝のミーティング時やユニット会議などで)</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>利用者の状況変化や通院介助時に対応できるように職員の勤務変更などは、話し合いで調整に努めています。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>移動や離職ではダメージを防ぐ為、できる限り1ヶ月ほどの重複勤務を試行したりして、配慮に努めています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修に関しては、職員の必要性に応じて法人外での研修の場があったり、法人内では勤務終了後に時間を設け、看護師も交えての研修などを行っています。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同業者間での施設研修や事例発表会を通じてサービスの質の向上の取り組みをしています。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	事業所ないでは年度内で1～2回の職員親睦の食事会やボーリングを楽しんだり、法人全体での温泉宿泊や新年会、忘年会などが取り組まれています。		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	各自が向上心を持って働き続けられるように、資格取得などでの情報提供や勤務体制の柔軟な対応につとめています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	利用者本人の生活歴を伺い、不安なことをよく聴き本人が求めていることを見つけ出し、受け止める努力をしています。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家族等が来所時には居室にお茶を持参し、その場で困っていることや不安、求めていることを聴く機会作りや受け止めることに努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人や家族が、まず何を必要としているのか話を伺い支援やサービスの対応に努めています。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人が安心してサービスが受けられるように、職員は他の利用者との雰囲気になじめるように工夫したり、家族とも相談しながらすこずつ工夫しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	リビングではテレビを見ながら、ディルームでは音楽を聴いたり歌ったりトランプ遊びや、ラジオ体操を一緒にしたり昔の話をしたり聞いたりしています。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者一人ひとりの誕生日を家族と一緒に祝ったり、季節ごとの行事を一緒に行ったりして、本人を支えていく関係を築いています。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	来所される家族には、日々の生活状況を伝えたり、疎遠になりがちな家族には電話をかけていただいたり、より良い関係が築けるように努めています。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	時には行きたい場所にドライブしたり、馴染みの人や場所への送迎をしたり、来所してくださった方には特に関係が途切れないよう快く出迎えお帰りいただくことに努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	毎食時事や日に2度のおやつタイム他寛ぎの時間、利用者同士がかかわりあえるよう、一人ひとりの関係を把握し、孤立がないよう関わりを支え支援しています。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス終了後も家族や利用者が望んでいることに関わりをもちながら、関係を断ち切らない付き合いやアドバイスを大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや意向の把握に努め、困難な時にはスタッフ、ホーム長をまじえて本人本位に検討することに努めています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者の生活歴や暮らしの把握に努め、時には馴染みの洋服や家具、行事の話の中でこれまでの経過把握に努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	スタッフ一人ひとり、その日の勤務状況において、行動記録、申し送り事項に目を通し利用者一人ひとりに声掛けし、過ごし方や体調把握に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画は利用者本人がより良く暮らす為にスタッフ全員で意見や、アイデアを出し合い、介護計画を作成しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の期間に応じて、チームで(スタッフ全員で)見直しを行い、機関途中で変化が生じた場合も必要関係者と話し合い現状に即した計画を作成しています。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子やケアについては、個別記録に記入し、常に情報を共有しており、実践や介護計画の見直しにも活用しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	利用者一人ひとりのその時々々の要望に応じての嗜好品の購入や買い物支援、家族宅への外泊、外食などの送迎をしたり、柔軟に支援をしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアによる手芸や芸能、消防署の協力によつての昼間、夜間時の防災避難訓練など、地域資源との協働はしております。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	地域のサービス事業者やケアマネジャーとの話し合い(交流)を持ち、本人の意向があれば他のサービスを利用する為の支援に努めています。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要性に応じて、地域包括支援センターに出向いたり、電話をしたりなど協働に努めています。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人及び家族の希望を第一に、かかりつけ医を決めており、事業所はかかりつけ医と利用者本人が良い関係が得られ、適切な医療が受けられるように支援することに努めています。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	利用者が以前からかかっている医師との関わりを保ちながら、受診の際は職員が同行しより良い診断や治療が受けられるように、助言や支援に努めています。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週に2度の健康管理のほか、医療的支援や必要な利用者が居る場合は、その都度来所してくれて、看護職員との協働は得られています。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	利用者が入院となった場合は、本人が安心できるように度々面会に行ったり、病院関係者とも情報交換や相談も行ったり、連携もしています。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化や終末期に向けた方針については、出来るだけ早い時期に家族と話し合い、それによってかかりつけ医との、繰り返しの話し合いを家族と共に行い、全員方針を共有しています。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	事業所として出来ること、出来ないことを見極め、かかりつけ医と共にチームとしての支援に取り組んでいます。また、今後の変化に備えて、かかりつけ医を中心とした研修会や検討会を開いたりしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>グループホームから別の居宅へ移り住むことは、開設当初1～2件ありましたが、本人の希望より家族の希望(家族に近い場所)でしたが、住み替え時のダメージを防ぐ為訪問したり、住み替え先との情報交換を行ったりしました。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>一人ひとりのプライバシーの確保の言葉かけや対応、記録などの情報に気をつけています。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人が思いや希望が自己決定できるように、説明したり納得できるよう支援したりすることに努めています。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>日々の暮らしの中での食事などは、一人ひとりのペースを大切にし、入浴や外出も希望に沿って支援するよう努めています。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>その人らしいおしゃれが出来るように、染髪を手助けしたり、出張の理美容室を利用することが大半ですが、ときには本人が望む店への送迎をしています。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者の重度化により、一緒に準備は難しくなってきていますが、食事は一緒に同じ場所ですり、片付けなども出来る限り一緒に心がけています。特に誕生会の食事は誕生者の好みに合わせています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	希望にそえる様に支援をしています。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	オムツ使用者の一人ひとりの排泄パターンを知り、時間で誘導トイレで排泄できるよう支援に努めています。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	夜間入浴は現在行っていませんが、一人ひとりの希望で入浴を楽しむ努力はしています。(温泉気分を楽しむ入浴剤、1番に入りたい人、○○さんの後に入りたい人、熱い風呂ぬるい風呂など)		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	就寝前の口腔ケア支援、着替えの手助け、そのときの状況に応じて温かい牛乳を飲んで頂いたり、安眠の支援に努めています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	音楽を聴いたり(童謡、民謡、フォークソング、歌謡曲など)時にはユニットまで遊びに行ったり、ホーム長と会話を楽しんだり、一人ひとりの過ごし方に合わせた支援に努めています。夏場は外でのバーベキュー、ながしそう麺などで気晴らし支援をしています。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一人ひとり希望に応じて使えるお金は、本人が所持したり、預かりしたりしています。本人所持の人は必要に応じて銀行や郵便局での引き出しに送迎をかねてスタッフが一緒に行ったりして支援に努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	時には、近所の家のイルミネーションを見に行ったり、隣の老人ホームまで遊びに行ったり、その日に希望があれば、戸外に出かけられるように努めています。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	1年を通して花見や紅葉狩り、温泉入浴、さくらんぼ狩り、ぶどう狩りなど出来る限り家族と共に出かける機会を作り、又、少人数や個別にはドライブ等で出かける機会作りに努めています。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	遠い家族には、電話をしたり取り次いだり、又、年賀状などでの大切な人へのやり取りや、時にはハガキなどで近況を知らせたり出来るよう支援に努めています。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも気軽に訪問していただき、居心地よく過ごしていただくよう、お茶の接待をしたりしています。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	いかなる場合も身体拘束をしないケアを実践する為、どんな事が身体拘束の行為になるのかを正しく理解するプリントなどを利用してケアに取り組んでいます。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中玄関には鍵をかけておらず、ユニット内で風邪が流行った時はユニットの鍵を掛けた事はありますが、居室も極力鍵をかけないケアに取り組んでいます。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○利用者の安全確認</p> <p>67 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>車椅子利用者には常にブレーキの確認、所在の把握をし、歩行器使用者共昼夜の安全に配慮しています。(置き場所や通路なども)</p>		
<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>68 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>特に注意の必要な危険な物品は、保管場所を考え、危険を防ぐ取り組みに努めています。</p>		
<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>69 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>火災や災害時などの緊急時に対応する為の連絡網や近所の方々へも協力を依頼しています。転倒に関しては一人ひとりの状態に応じた取り組みをしています。</p>		
<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>70 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>利用者の急変や事故発生時に備え、職員も数ヶ月に1度くらいですが、代わる代わる応急手当や対応の仕方を消防署の協力を得て行っています。</p>		
<p>○災害対策</p> <p>71 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>火災などの災害発生を想定した避難訓練には、地域の方々の協力を得て行い、常に協力を得られるように働きかけを心がけています。</p>		
<p>○リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>72 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>リスクが発生した場合や、起こりえる状態にある場合は、家族と良く話し合い納得した状態に対応したり、話し合ったりしています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	一人ひとりの体調変化や異変には日々努め、気付いた際は速やかに情報を共有し自分たちで判断不可の場合は看護師の協力の下で対応しています。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の目的、副作用、用法や用量については処方箋にて確認し、服薬の支援や症状変化の確認に努めています。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排便の状況を確認して、予防や対応など身体を動かす働きかけをしたり、飲水や飲食物の工夫もしたりしています。(冷たい牛乳、ヨーグルト類を含む)		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	一人で出来ない利用者は毎食後、口腔内、義歯のケアを行い、自分で出来る方は声掛けでしていただき、なかなか行わない方は半分介助する形で支援をしています。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量は毎食記録し、水分も一人ひとりの摂取量を記録しています。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)	内外出入りの際は玄関前に消毒液などを置いており、外来者にも働きかけています。利用者や職員は外出時マスクを使用し、うがいや手洗いも実行しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材管理には常に安全、新鮮管理に努め、調理器具用具、布巾類はキッチンハイターでの消毒をこころがけています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	夏季は玄関前にプランターなどで花を飾り、冬季は常に除雪に気をつけ、住みやすく安心して出入りできる工夫を心がけています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居間、台所、廊下などには緑を心がけ、カレンダーやタペストリーも利用して、生活感や季節感が感じられるように工夫に心がけています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	時にはひとりで居室で過ごしたり、お互いの居室へ行ったりきたり利用者の所在を確かめながら、一人ひとりの居場所作りに心がけています。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自分用の使い慣れた家具などを居室に置いたり、写真を貼ったり、本人が居心地良く過ごせるように本人や家族と相談しながら工夫をしています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度調節や湿度には特に気をつけ、睡眠時も気分良く休めるように居室内の温度湿度に配慮し、調理時や入浴時には特に換気に気をつけています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内部は安全かつ自立した生活が送れるように、手すりを儲けたり、居室入り口には名前(表札)を掲げ、トイレも理解できるように工夫はしています。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	個々の持っている力を活かせるように、又、混乱や失敗で自立性が失われないようにアドバイスしたり一緒に行動したりしています。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	季節に応じて流しそうめんや花火、日光浴や園庭でのおやつや散歩、焼肉昼食会など楽しんだり活用したりしています。		



V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない ①
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ②
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ③
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない ②

V. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	②
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	②
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	①
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	①
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない	①

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)